

第二期中期目標期間（平成 24～29 年度）の
業務実績に関する評価委員会における提言

【素案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学に係る第二期中期目標期間（平成 24～29 年度）の業務実績に対する評価及び指摘事項等について、和歌山県及び公立大学法人和歌山県立医科大学に対する各委員の提言を、下記のとおり取りまとめた。

記

【研究】

- 独立行政法人制度が始まって以降、わが国の医学研究の論文発表が低迷していることは広く認識されているが、これには構造的な課題があると思われる。貴学においてもこの構造的な課題を深く分析し、対応を検討する必要があり、英文エディターを採用するなどの対応だけでは改善が困難であると思われる。

大学院生の研究時間の確保、研究成果に対するインセンティブの設定、海外の国際学会での発表の機会増、外部研究資金や行政による支援の獲得にかかる取組、教授の選考における研究実績や外部研究資金獲得実績の評価、優秀な研究者の確保など、様々な取組を検討されたい。

【臨床】

- がん診療については、単に実施件数などの評価だけでなく、がんの診療によって患者の治療成績がどのように向上したのか、和歌山県のがん患者の治療成績にどのように貢献したのか等を中長期的視点で評価できるアウトカムを定め、分析評価する仕組みの構築を検討されたい。

【地域貢献】

- 和歌山県では、地域医療を担う医師の確保が大きな課題である。地域医療の充実に向けて、専門研修医や各講座の医師数を増加させるための具体的な取組が期待される。

【運営体制】

- 第三期中期目標期間においては、大幅な収入増や経費削減が望めないものと思われることから、「全員参加型の納得のいく予算」を組むことを期待したい。

- 資金運用については、定期預金による余剰資金の預け替えや引合の実施などに取り組んでいるが、収益額が低減傾向にある。
余剰金の運用方法の検討や、同窓会等を対象とした基金の創設など自己収入の増加に向けた取組を検討されたい。

- 地方独立行政法人法が改正され、評価委員会による評価結果を業務運営の改善等に適切に反映させることが明記された。第三期中期計画を達成するためには、評価結果を学内にフィードバックしPDCAサイクルを有効に機能させることが必要であることから、実施状況の進捗管理を徹底されたい。

- 教育・研究・医療環境の施設及び設備の整備、修繕については、施設・整備長期修繕計画はもとより、財務状況を踏まえながら、計画的に進められたい。